

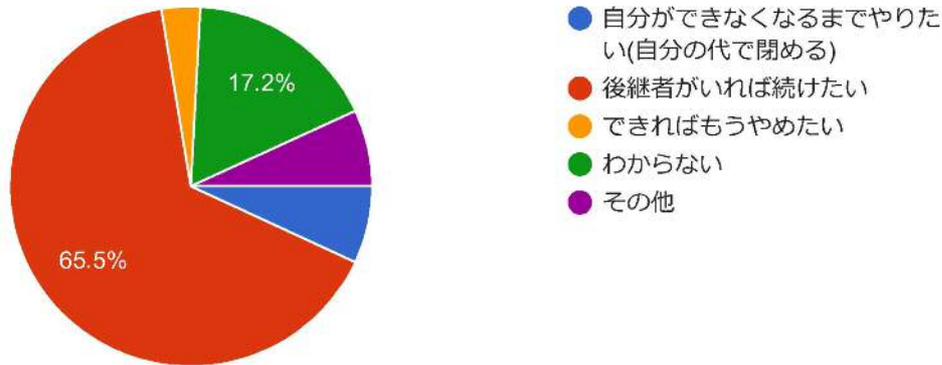
2022茨城県所属長アンケート結果

次世代道院・支部運営研究会調査

1. あなたの道院・支部は、どれくらい運営を続けたいですか？



29 件の回答



2. 1の理由を教えてください。

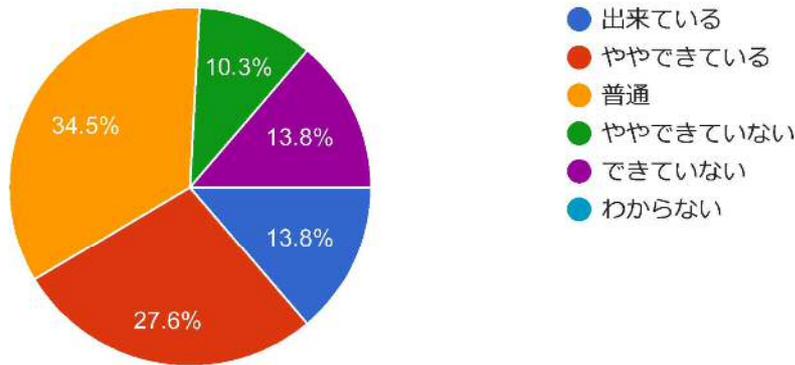
24 件の回答

- ・稲敷市唯一の少林寺拳法が修練できる場だから
- ・自分の体力と気力と相談しながらの運営ですのではっきりと期限はわかりません。
- ・前道院長が茨城取手道院生え抜きで取手市在中の拳士が後継する旨言い含めてある。
- ・地域に根差した少林寺拳法を絶やしたくないため、後継者の育成に努力している。
- ・せっかく立ち上げた道院なので、出来れば存続させたい。
- ・一般者増員に向けて健康プログラムを活用し各種教室開催しチャレンジするも深掘りが不足しており結果が付いて着てこないのが現状である。今後は本来の宗教活動をど真ん中にして健康、介護、交流を兼ねた居心地の良いたまり場を造って行こうと考えている。時代の変化にあった活動を模索中。
- ・使命です。
- ・高校生に少林寺拳法の教を広げていきたいため
- ・今はわからないが、後継者を育て、継続的に運営したい
- ・続けるには後継者が必要
- ・心身ともに健全である限り続ける。その間に後継者育成も行う。
- ・道院は永続するものと師伝されているため
- ・二人の者が大学で少林寺をやっている。後継者にと期待があるから運営している。
- ・拳士も集まらず少なくなる一方であり、道院としての維持が難しくなっている。
- また、指導する自己が高齢のため知力や体力面に衰えを感じてきており、拳士に対して十分な指導ができなくなっている。
- ・使命と思います。
- ・地域に認められてきており、これから育っていく拳士がいるので継続させたい。
- ・コロナ禍の関係で参座数がこれからも減少するみこみ
- ・コロナで先の判断ができない為
- ・現在参与道院長制度を取り入れてるので継続は可
- ・存続を前提に考慮中
- ・転勤があるため、自分が異動してしまうと、指導出来る方が来なければ休部または廃部とせざるをえないため。
- ・関東、全国大会などの上位大会への出場や昇級を通じて、生徒が自信をつけ、成長する様子にやりがいを感じており、また学校の活性化に貢献できている、半ば自己のため半ばは人のための実践となっているから。
- ・後継者を育成中である。
- ・少林寺拳法の指導は、ボランティア活動の一つであり、
- ・少林寺の活動を通して地域社会に貢献する。
- ・専有道場が自宅のため

3. あなたの道院・支部運営は、上手くいってますか?



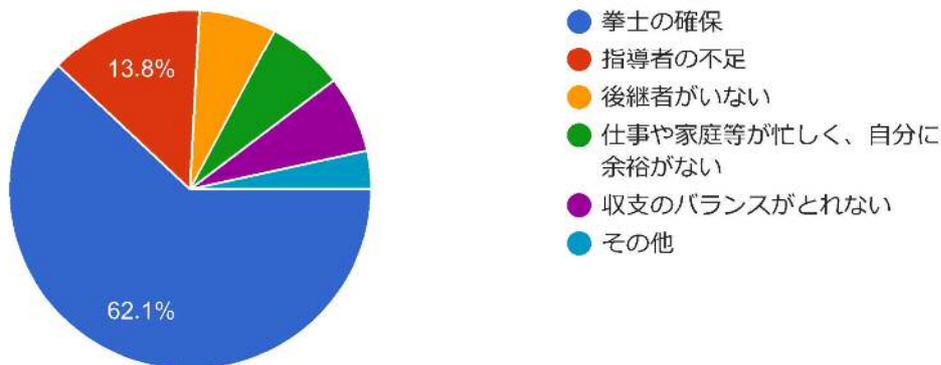
29件の回答



4.あなたが思う運営の最も難しい面は何ですか?(複数回答したい場合は、理由に記入ください)



29件の回答

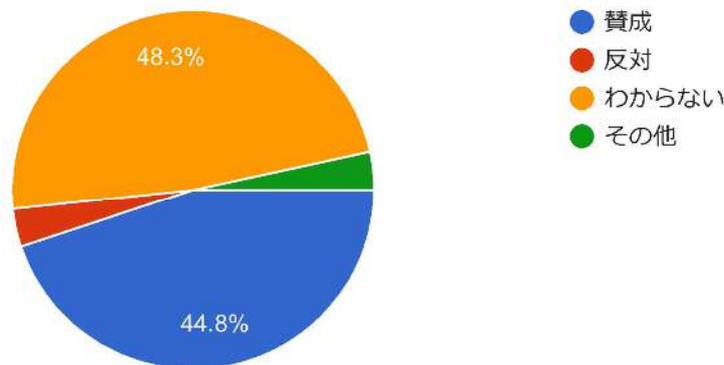


「スポーツ少年団」のため大人が少ない
自前の道場ですので収支は大きな問題です。
拳士の確保にポスターを配ってるが、少林寺の魅力がわかって貰えないため、苦戦している
現役拳士が10名以下なので活気がやや不足。少年拳士を育てたいが拳士はゼロ。
中学生になると辞める拳士が多い反面、新規の入門者が少ないので、拳士数が右肩下がりとなっている
道院（宗教法人）としての拳士募集が公共機関でできない。また、財団支部の方が安易に入会できる。
新型コロナウイルス感染症の影響もあり拳士が集まらない。
仕事はフルタイムで神栖市スポーツ推進委員役員とかみすスポーツクラブ運営で多くの時間が取られて
道院活動に対する注力が希薄であったことが反省である。今後は今までの活動を再考し軸足を道院活動
に振り向ける考えである。
コロナの中で、集まらない。
部活動をやる生徒が減っているため
現在、仕事や家庭が忙しく自分に余裕がない。また、指導者が育っていないので、どこまで出来るか
不安である。
指導者不足が後継者がいない
収支のバランスをとるために、一定の拳士数確保が必要である。
今までに一般拳士が少なかった
コロナウィルス感染拡大により、集まりにくい。
技術・思想（金剛禅運動）の両方を兼ね備えた指導者を育成したい。
全ての項目が該当します
参座数激減、自前の道場である。
時代背景かもしれませんが、少林寺拳法に対する認識が薄れているとともに、自分たちの布教活動が
かけているのかもしれない。
今のところ打つ手がありません
職場の規模縮小にともない、何役もの仕事をこなす必要があり、指導の時間を確保することが難しく
なっていること。
本校入学の生徒は大人しい生徒が多く、年々武道に興味を持つ生徒が少ないことを肌で感じている。
少林寺拳法そのものの知名度がなく
入団する子供たちが少ない。
地域的問題や、人口の減少

6. 外部指導員制度についてどう思いますか?(所属外の指導員の受け入れについて)



29 件の回答



それぞれの道場の特色、特徴が薄れていく懸念はある反面、拳士を含め自分自身も様々な考え方や指導方法に触れる機会が出来るため反対する考えはありません。

外部指導員の意味がよくわからない。

少林寺憲法をわかって貰える機会かな???

協力関係を築いていくのはいいが、所属長の先生の独自のカラーがあるので尊重して行った方がよいと思う。

指導者同士の交流となり、良い面を学ぶことができる

その指導者の所属等の対応について未知数。また、その指導者が最後まで責任をもって対応できるかも未知数。

うまく行くかどうか分からない。

夫々の先生の持ち味を埋没させてしまうのは大変もったいないし講師の立場になれば更にブラシアップされ潜在能力が発揮され内部から活性化させて行くことは大切である。

一人より、二人の指導が、魅力的。

複数の指導者がいた方がいため

現在、外部指導員に来てもらっているから、とても助かっている

偏りない指導が良いと思う

互いの情報交換、交流にとっても有効である。また、所属拳士にとっても一定の緊張感が生まれるので、良いことである。

拳士数増加に繋がればいいと思います。

うまくいくとは思えないから

同じ指導者だけではマンネリ化してしまうため、外部からの指導も拳士並び指導者も良い刺激を受けるのではないかと感じます。

一人より、二人の指導が、内容が楽しく出来る。

道院・支部の特色（特徴）や所属長の指導方針があるので外部指導員が理解して指導できるかが課題と思います。

参座数がないのに理由がわからない。

具体的な内容がはっきり分からない為

中学や高校の部であるなら外部指導者制度は良いかもしれないが、道院となると必要無いのではないか。

自分の指導時間の確保が難したため、このような制度は有難いです。

自分だけでは研修不足であり、実技の指導力に自信がない。

活動ができるのであれば継続したほうが良い。

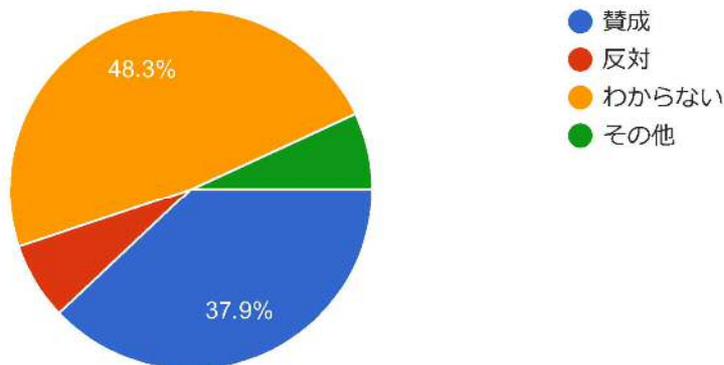
交通費等の費用負担が発生するので。

※自己負担なら賛成！！

8. 近隣同士の合同運営についてどう思いますか?(合併や協力運営の可能性)



29 件の回答



他の所属の拳士たちとの交流が持てるため

自前の道場ですので時間的、経費的になりたないと思う。

支部の人数が減ってきてるため、拳士にいい刺激になるかと思う。

将来道院長を目指す参与道院長も増えてくると思うので、活躍する場ができて良いと思う。
指導者の負担が減り、人数が増えることで新規入門者が入りやすくなる

それぞれの道院で既存の修練時間や場所等（距離）の統一ができれば合同運営可能と思う。

※新設と違い既存の生活パターンが出来上がっているため変更が難易。

運営費に関わることもあるため、簡単にはできないと思われます。

近隣道院が連携を取りながら共に助け合いの関係を造って行かなければ楽しみもやりがいも沸いてこない。お互いが刺激し合い情報を共有共助して行きたい。

集まると、楽しく学べる。

幅広く協力して出来るため

合同運営の課題は、色々あるが、過疎地域の道院運営は今後も悪化することが予想されるので、今のうちに新しい道院運営を研究したい

独自性も必要とも思うが何が良いかはわからない。運営の仕方と思う。

信頼関係が前提である。

メリット、デメリット比較してデメリットを受け入れる所属長は少ないと感じます。

対等合併以外は消滅すると思う

地域によっては、交通状況など難しい面がある。

みんなと、練習、その他行動する事によって、団結力がつく。

今後はこのような形態にならざるを得ないと理解します。長年苦勞して運営してきた道院支部を拳士数の減少により合併により廃止したり、共同運営で所属名が無くなってしまふことの理解が得られるかが今後の課題であると思います。

現在の拳士の数からすれば近い将来合併しかないと思いますが、その時は全てを譲る形になります。

合併して参座数がふえるのか疑問

具体的内容が不明な為

道院・支部独自のカラーがあるので、合同運営は好ましくないのではないかと。

やってみないと分からない、というのが率直なところ。人が増えることで、活気が出ることは良いと思いますが、指導の仕方を含めた運営方針が一致できるのか気になります。

単体での活動は成立していない。運営面から効率化や合理化を図る必要がある。参加者もより多くの生徒・拳士が集まることで刺激となる。

指導者の運営方針があるのでうまく運営していけるか

トラブルが発生しないか？

合同運営とは一つの単位(道院)としての運営でしょうか？そうすると収支等も・・・

となると弊害が生じるため。

10. これから茨城県の少林寺拳法の道院・支部が存続するには、何が必要と思いますか？
29 件の回答

よくわかりません

拳士の確保、収支のバランスを考えた運営、指導者の定年制

拳士の確保。若い支部長の育成。

後継者の育成に尽きるのでは。それぞれの道院で門下生が「私は将来道院長になりたい」と言ってくれる拳士を育てること。仕事と家庭と少林寺四苦八苦している道院長に魅力は無い。(かつての自分がそうだった。)かと言って、定年後だからできるんだよと言われるのも短絡的。若い道院長も高齢の道院長も、金剛禅の教えを実践してその人なりの徳を発揮して門下生を導いていく。

拳士数の確保

指導者の「やる気」と「情熱」が必要

在続していききたいと思う意志・気持がなくなっている。

現役の道院長が健在なうちに、交代を進めることが望ましい。

従来の少年育成中心の活動が少子化になり行き詰まっている現状がある。今後は大人に対する金剛禅の活動に注力することで共に学びたまり場的なネットワークを作りあげ将来に向け目標を設定し作りあげる楽しみを共有する事が存続の決め手と思っている。

何事にも、協力し団結して行動にあたる。

支部間の連携

近隣道院支部の協力体制の構築と若手の拳士が楽しみながら継続できるものを今いる拳士で作りたい

少林寺拳法の目指す社会貢献について持続可能活動で価値を高め部外に認識して貰う

少林寺拳法関係者の枠を超えた活動。

魅力ある指導者

茨城だけの問題ではないが、道院運営条件など道院長にかかる負担の軽減が必要。

場所の確保が難しいため、茨城県連で修練可能な施設の紹介。

入門希望者に対するブロック毎の支部・道院の紹介

時代に合った、教えによって、拳士の確保、練習、楽しい集まりが必要。

20代・30代・40代の指導者(所属長)を多く育成していかなければならないと考えます。

この年代の道院支部運営等に負担を軽減し活動できる環境を整備する必要があると思います。

こちらが知りたいです。

指導者の定年制、収支のバランス、補助金の導入

本山、本部が危機感をもって組織、運営体制を大幅に変更するべき

門下生(拳士数)が少ない、道場院・支部に近隣で、合同練習をしたり、日常の修練日の1回を合同修練日にするなど継続していくことも必要かと思う。

不明

若い指導者の確保

まずは拳士の確保だと思います。各種イベントにおいて、少林寺拳法のアピールする機会を増やすことも必要に感じます。

小学校、中学校の教育機関で少林寺拳法に触れる時間を確保することで、認知され、親近感を持ってもらう。「知る」機会を増やすこと。

入門者の確保

今は、ブロック活動がほとんどなく、教区活動が主になっているが、場合によっては一財支部も教区活動に参加して活性化を図る。

また支部でも、高校支部が減少し、大学支部も現在は2大学です。

高校は指導者はいますが、大学などは外部(道院)から1回/月の指導に行くなどの交流があってもいいと思います。できれば高校も含め・・・。

また県連あげて、中学校の武道教育のプロジェクトを組織して学校や、教育員会へのPRなどの取り組みを行うのはどうか？

そうすれば、興味ある人は入門・入会があるかもしれません。

11. 現在の県連活動、武専、小教区制度、昇格考試、大会、講習会等について、具体的な意見や要望などありましたらご記入ください。

23 件の回答

大会の時など、同じ顔ぶれの父兄さんがお手伝いをしてるので、出場支部1名は、お手伝いを出すことは、難しいですか？

武専、大会、講習会、小教区と行事が多いので担当されてる先生方は本当に大変かと思えます。そのひとつひとつが胸を張って幸福運動だからと、自分に対してははっきり言えるか、といつも自問自答しています。いつも来ない道院長は来ない。寂しくもあります。

少林寺拳法だけでなく他武道との交流もあった方が活性化すると思う
県連や武専等に集まることが楽しくなる風土づくりが必要。逆にストレスを感じるような集合体にしてはならないと思う。

茨城県はよくやっている方ですが、特定の方に頼っている状況がある要改善。

本来の心身共に強い少林寺拳法をベースに能動的に活動できるポリシーが必要と思う。

皆さん協力している、年寄りには、集まりが多いように思う。

子ども目線のもの、学生目線のもの、マスターズ目線のもの、女性目線のもの、など、小分けにした活動があれば、横の繋がりがより近くなると思います。

県連や小教区の合同試験体制はとても大切だと思う。しかし、若手所属長や試験管に多くの負担がある為、回数減の見直しや近隣道院支部の協力で昇格試験は実施可能と考える。小教区制度は否定しないが、定期的にはわざわざ集まる内容ではない為、県連行事に合わせて行える工夫が必要。合同の宗教活動が必要であれば近隣道院同士互いに調整し実施すれば良いと思う。各道院ごとにしっかり宗教儀式や活動は行っているのだから問題ないと思う。

一番は何ごととも笑顔で楽しく、武的な技術修得が出来て自信がつくことで更に楽しくなる活動が必要

10の意見と重複するが、内輪の行事に終始するのではなく、広く一般を取り込んだ行事運営。

例えば少教区活動でいえば、地域住民を集めての金剛禅講演会等。

みんなと協力し行動する。年寄りには、回数が多く感じる。

各種事業の運営が役員だけとなり負担がかかるので所属長だけでなく各所属の幹部拳士等に入ってもらいグループとして活動をしてはと思います。

特になし

現在に特に不満はありません

小教区活動、2道院での活動、数多い道院での活動と地域差がある。数多い道院での活動は、参加しなくてもいいと思う面があるのか所属する道院の欠席も目立つ。考試員・審判員はたくさんいるのに大会での協力者は少ない。また、昇格考試においても考試員は限られた人が多い。日頃から、該当する考試員を道院・支部でローテーション(数年にかけて)で活用し、資格意識をもたせることも必要ではないか。ありません

各活動においては、ある程度の経験値が必要となりますが、特に大会においては、各道院支部の幹部の方々を固定メンバーとして起用しても良いのではないかと思います。
指導者の高齢化、拳士の減少により各高校、道院支部の統廃合は避けられない。拡大路線でなく、ミニマム化を図る。できるだけ大会、研修等の行事を見直し、合理化、効率化を図り、現役の方々の負担を減らしたうえで、できる範囲の活動に絞る必要がある。
少林寺拳法の先生方が、まじめに取り組んでいることに敬意と感謝を申し上げます。

1. 一部の担当者によって担当の割り振りが決められている。

※決めなければならない場合もあるが、本人の意思確認は大切ではないか。

組織なので、稟議や決定事項は関係者(道院長・支部長)を招集して行うべきである。

そのために所持区長会議がある。

理事会で決まったことが、所属長会議で通達されているが、逆ではないかと思えます。

所属長会議で稟議し、理事会で決定の流れが正常とおもわれる。

2. 行事の日程は、施設の調整会議でのことなので特に問題はない。